

令和7年度使用教科用図書調査専門委員会 調査研究報告書 観点・着眼点（ 種目名 社会・地理的分野 ）

| 観 点 | | 着 眼 点 |
|-------------|------------------------------------|--|
| 1 | 学習指導要領との関連 | 日本の国土及び世界の諸地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。 |
| | | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うための工夫・配慮の程度はどうか。 |
| | | 日本の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めるための工夫・配慮の程度はどうか。 |
| 2 | 「コンパスぷらん（第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連 | 「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことができるような工夫・配慮の程度はどうか。 |
| | | 「多様な人と学び合う」ための工夫・配慮の程度はどうか。 |
| | | 「夢中で探究する」ための工夫・配慮の程度はどうか。 |
| 3 内 容 | (1) 内容の選択 | 人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮の程度はどうか。 |
| | | 歴史、公民との関連が分かりやすく示されているとともに、日本の伝統・文化や社会の変化に適応した内容の適切さはどうか。 |
| | (2) 内容の程度 | 日常生活・実社会に関連付けられるような記述や教材の充実についての程度はどうか。 |
| (3) 内容の構成 | 補充的な学習や発展的な学習の内容の扱いやすさや分量の適切さはどうか。 | |
| 4 | タブレット端末の活用 | タブレット端末を活用して学習の効果を高めるための工夫の程度はどうか。 |
| 5 | 表記・表現及び使用上の便宜等 | 本文と注・写真・地図・年表・図表等の関連付けの適切さはどうか。また、目次・索引・注・凡例・諸表・資料等の適切さはどうか。 |
| 6 | 印刷・造本等 | 「ユニバーサルデザイン化の観点から印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等」、「造本の堅ろうさや体裁」、「再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮」など印刷造本等の工夫の程度はどうか。 |

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書(種目名 社会・地理的分野)

| 観点 | 東京書籍 | | 教育出版 | | 帝国書院 | | 日本文教 | |
|--------------------------------|------|--|------|--|------|---|------|---|
| | #00 | 特徴 | #00 | 特徴 | #00 | 特徴 | #00 | 特徴 |
| 学習指導要領との関連 | ○ | 世界の諸地域では「世界の窓」、日本の諸地域では「○○の視点で見よう」を導入し、地理的な見方・考え方を働かせる点から、地域的特色を掘り出し、探究的に振返り学習に取り組みたい旨を明示している。また、「スキル・アップ」で基礎的な技能を身に付けることができるようにしている。 | ○ | 各州・各地方の導入で、学習を促す導入ページを設け、単元を通して地域的特色が理解できるように構成されている。また、「THINK!」で「地理の窓」では探究に使う資料の読み方をポイントを示し、まとめる技能を身に付けるようにするための工夫がされている。 | ○ | 各州・各地方の導入には豊富な資料が使われ、特色ある事象を取り上げ、地域的特色を確実に理解できるように基礎的な知識の視座になっている。また、「技能をみがく」で基礎的・基本的な技能を身に付けたり、「地図活用」マークで見方・考え方を働かせたりすることができるような工夫がされている。 | ○ | 大観ページで各州・各地方の概要をつかみ、導入で「節の問い」を立てられるようにしている。毎時間の「確認」「表現」で学習課題に対応した問いを示している。また、「スキルUP」などで学習に必要となる知識・技能を身に付けることができるようにしている。 |
| | ○ | 全編を通して地理的な見方・考え方を意識して学習できるようにしている。導入で各州や地方を貫く探究課題を設定し、1単元時間を学習をまとめる「チェック＆トライ」と単元末に「みんなでチャレンジ」を設け、多面的・多角的に考察し、議論できるような工夫がされている。 | ○ | 世界の州では「学習テーマ」、日本の地方では「学習の視点」を基に、毎時間、「確認」と「表現」でまとめたり、説明したりする場面を設定している。また、単元末の「学習のまとめと表現」で考察したり、グループで議論したりすることができるようになっている。 | ○ | 「見方・考え方」マークを設け、課題解決に必要な思考力を深められるようにしている。単元末の「学習を振り返る」では、思考ツールを用いて自分の考えを整理・構造化できるように配慮されている。また、節の問いについて考察し、グループで議論できるようになっている。 | ○ | 「表現」「トライ」「スキルUP」「資料活用」マークなどで、毎時間、思考力、判断力、表現力等の向上が図れるようにしている。単元末の「まとめと振り返り」で自分の考えをまとめ「議論してみよう」で多面的・多角的に考察し、議論できるような工夫がされている。 |
| | ○ | 各州・各地方の導入で「聞かせて!中学生」を設け、現地の生活の様子を取り上げることで、国土理解や異文化理解を深められるようにしている。各州の導入で各国の言語や国旗を取り上げるコーナーを設け、異文化への関心を高め、他国を尊重する態度を身に付けるような工夫がされている。 | ○ | 各地方の導入で、伝統行事や文化財の写真を掲載し、国土理解が深まるようにしている。「地理の窓」や「クロスロード」では、人権尊重・多文化共生や異文化への理解、郷土や日本への愛情を深めることができるようにしている。 | ○ | 各州・各地方の導入で「とびら・写真で眺める」を設け、見通しをもつて学習できるようにすることで、正しい国土理解や異文化理解ができるようにしている。また、コラム「声」で伝統や文化を尊重する態度を身に付けることができるようになっている。 | ○ | 「地理+α」では、コラムや写真が多数紹介されていたり、現地に住む人々の話を顔写真付きで紹介したりしており、多様性の尊重や異文化理解、我が国の国土への愛情、日本の伝統・文化への理解や継承の大切さなどについて気付かせるような工夫・配慮が随所に見られる。 |
| 「コンパスがらん(第4期春古里市教育振興基本計画)」との関連 | ○ | 州や地方を大観した後、州や地方を貫く探究課題を立てさせる場面を設けている。その後、毎時間、課題解決的な学習プロセスで学習課題の答えを追究する形で学習を進めるようになっている。まとめのページは、州や地方を貫く探究課題を基に学習を振り返ってまとめる構成になっており、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるように、よく工夫されている。 | ○ | 州や地方を大観させた後、各州では「学習テーマ」、各地方では「学習の視点」を提示するようになっている。その後、毎時間、学習課題の答えを追究する形で学習を進める。まとめのページは、学習を振り返ってまとめることができるような構成になっており、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようになっている。 | ○ | 州や地方を大観させた後、単元を貫く節の問いを提示している。その後、毎時間、学習課題の答えを追究させる形で学習を進めるようになっている。まとめのページは、節の問いを基に学習を振り返ってまとめることができるような構成になっており、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようになっている。 | ○ | 州や地方を大観させた後、「節の問いを立てよう」で、問いを立てたり、学習の見通しをもたせたりしている。その後、毎時間、学習課題の答えを追究させる形で学習を進めるようになっている。まとめのページは、節の問いを基に学習を振り返るような構成になっており、自分に合ったペースや方法で学ぶことができる。また、ボーフォリオで考えの愛着や探求を実感させる工夫があるが優れている。 |
| | ○ | 「発展に向けて課題」で、アフリカの課題を挙げ、その原因と課題の深刻さを具体的に説明している。国際社会の協力や支援について紹介して、発展のための取り組みについて話し合うことに適している。また、「まとめの活動」の「みんなでチャレンジ」にグループ活動や話し合いの手順が示されるなど、多様な人と学び合うための工夫がよくなされている。 | ○ | 「モノカルチャーから多様化を目ざして」で、アフリカの課題を挙げ、課題の内容を具体的に説明している。現状の課題を踏まえて、アフリカの課題の解決と成長について、多様な人と学ぶことに適している。 | ○ | 「アフリカが抱える課題とその取り組み」ではアフリカの課題を挙げ、その内容を具体的に説明し、発展に向けた国際的な取り組みを紹介している。技術支援や開発援助の事例を基に、発展に向けた取り組みを多様な人と学ぶことに適している。 | ○ | 「社会の変化と国際協力」で、アフリカの課題を挙げ、原因と解決の糸口となるアフリカの強みを紹介している。中国との関わりを紹介している。国や国際社会を紹介し、実現可能性のある解決策を考えることができるようになっている。また、「まとめと振り返り」の「議論してみよう」に話し合いのテーマと手順が示されているなど、多様な人と学ぶための工夫がよくなされている。 |
| | ○ | 単元「地域調査の手法」で、資料や二次元コードを活用することで、地域調査の手法を身に付けることができるようになっている。調査内容をまとめる場面では、「私たちにできること」を考慮することで自分ごととして学習するように促しており、探究意欲を喚起している。また、「スキル・アップ」で調査の手法を丁寧に解説しており、夢中で探究することにつながり、よく工夫されている。 | ○ | 単元「地域調査の方法を学ぼう」で、名古屋を事例としており、生徒が親しみをもちながら防災を軸に地域的特色を幅広く調査することができるようになっている。最後に他の地域と比較する場面を設けることで、さらに探究しようという意欲を喚起している。また、身近な古屋を載せている点でも夢中で探究するための配慮がされている。 | ○ | 単元「地域調査のしかた」で調査の六つの視点を提示し、調査する地域的特色に気付くことができるようにしている。「技能をみがく」を活用することで、地域調査の仕事を丁寧に説明している。調査結果を発表した後、意見交換をすることで、さらに探究しようという意欲を喚起している。 | ○ | 単元「地域調査の手法」で五視点を提示し、見通しを示しながら京都府伏見区の調査をすることができるようになっている。調査結果の発表では、他者の意見や質疑応答を活用して、自分と他者の共通点や異なる点に注目し、学習内容を振り返って自分の考えを深める活動を取り入れており、さらに探究しようという意欲を喚起している。 |
| (1)内容の選択 | ○ | 人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮について特に問題は見られない。キャラクターのイラストで、多様な生徒(男子・女子・外国人・障害をもつ生徒)が描かれており、より配慮されている。 | ○ | 人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮について特に問題は見られない。キャラクターのイラストで、多様な生徒(男子・女子・外国人・障害をもつ生徒)が描かれており、より配慮されている。 | ○ | 人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮について特に問題は見られない。 | ○ | 人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮について特に問題は見られない。 |
| | ○ | 歴史や公民とリンクする部分で資料ごとに示されているが、具体的な該当分野の記載がなく関連が分らない。「日本の諸地域」「未来にアクセス」で伝統・文化について扱っている。「未来にアクセス」では、本文の内容に関連する社会の変化に適切した課題を取り上げ、生徒が興味・関心をもって持続可能な社会の実現について考えることができるよう工夫されている。 | ○ | 毎時間、「関連」として関連する学習内容とページが示されており、内容の系統性が分りやすくできるよう工夫がされている。「日本の諸地域」で伝統・文化について扱っている。「世界への諸地域」では、SDGsで示される地域的課題の視点も州ごとに設定されており、社会の変化に適切した課題も視野に入れながら学習することができるよう工夫されている。 | ○ | 毎時間、歴史・公民や小学校での学習、他教科との関連を示しており、教科横断的な視点で位置付けを伝えることができる。「日本の諸地域」で伝統・文化について扱っている。「未来に向けて」では、人権や環境、防災など社会の変化に適切した課題を取り上げ、興味・関心を高め持続可能な社会の実現について考えることができるよう、よく工夫されている。 | ○ | 小学校の内容を想起させたり、公民の学習への見通しをもたせたりできるように関連が示されている。「日本の諸地域」で伝統・文化について扱っている。節の問いを設定する前、「持続可能な地域をめぐって」で、社会の変化に適切した課題解決のための取り組みが紹介されており、持続可能な社会の実現について考えることができるよう工夫されている点も優れている。 |
| | ○ | 「聞かせて中学生!」で、その地域で暮らす中学生が語る内容が日本と対比できるようにしている。「もっと知りたい!」「インタビューコラム」で、その地域の生活や文化、実社会における人々の工夫や努力を紹介しているなど、生徒が興味・関心を高めることができるよう工夫されている点も優れている。 | ○ | 地域の人々の声を掲載することで、その地域で暮らす人々の工夫や努力を紹介している。また、「地理の窓」では、ニュースのような現代的な話題を取り上げたりするなど、生徒が興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 | ○ | 「声」では、その地域で暮らす人々の文化や生活を、「地理プラス」では、実社会における人々の工夫や努力を紹介し、生徒が興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 | ○ | 顔写真付きで、その地域で暮らす人々の生活や文化が身近に感じやすいように紹介するなどの工夫がされている。「地理+α」では、本文に関係する実社会における人々の工夫や努力を写真とともに紹介しており、生徒が興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 |
| (2)内容の程度 | ○ | 単元末のまとめにおいて学習内容を確認することができるよう工夫されている。「もっと知りたい!」では、本文に関連する内容を広げたり深めたり、追究の視点とは違う視点で捉えたりすることができるよう工夫されている。 | ○ | 単元末のまとめにおいて学習内容を確認できるよう工夫されている。「THINK!」では、資料を読み取るヒントを基に考えを深めることができるようになっている。「クロスロード」「TRY!」では、具体的な社会的事象を取り上げながら、各地域をつなげたり、自分の地域に置き換えて考えたりすることができるよう、よく工夫されている。 | ○ | 単元末のまとめにおいて学習内容を確認することができるよう工夫されている。「アクティブ地理」では課題解決的な学習を設定し、情報収集や情報の比較・関係付けを取り組みながら、現代的な課題について考えることができるよう工夫されている。 | ○ | 単元末のまとめにおいて学習内容を確認することができるよう工夫されている。単元末のまとめをした後、「議論してみよう」で、学習内容を基に、地域的課題の側面からその地域が抱える課題について考えを深めることができるよう、よく工夫されている。 |
| | ○ | 二次元コードから章・節ごとに分類された外部HPに接続し、「導入クリップ」、毎日の学習で「チェック＆トライ」、動画資料の「DMO-VE」、組図作成ツール、用語集「ワードチェック」などの活動が活用できる「ワークシート」「思考ツール」などの情報を活用することができる。二次元コードはほとんどどのページに記載されており、簡便に情報に接続できるよう、よく工夫されている。 | ○ | 二次元コードから学習に関連する資料や情報が掲載されている「まなびリンク」に接続することができる。二次元コードは、各章の最初のページと章末のワードチェックに記載されている。学習に関連する官公庁HPへ接続できる「役立つリンク集」や、辞句クイズ「中学校社会クイズ」を活用することができる。 | ○ | 二次元コードから導入の「見通しスライド」、日本と世界の「統計資料」、ワークシート「アクティブ地理」、「用語解説」、「図解ナビゲーション」、リンク集などの豊富な情報を活用することができる。二次元コードは各章の最初のページと地図や統計資料などの横に適宜、記載がある。教科書の裏表紙に二次元コードの記載があることで簡便に情報に接続することができるよう、よく工夫されている。 | ○ | 二次元コードから章・節ごとに分類された外部HPを閲覧することができる。導入で視座する4分間の動画「イントロダクションムービー」、ワークシート「ボーフォリオ」、「確認テスト」、関連する官公庁HPなどを活用することができる。二次元コードはほとんどどのページに記載されており、簡便に情報に接続することができる。 |
| | ○ | 写真・地図・図表等を効果的に配置している。基本的なグラフや統計資料、地図などの読み取り方から始まり、調べ方、まとめ方、発表の仕方に至るまで、発達段階に応じて適切に配慮されている。 | ○ | 写真・地図・図表等を効果的に配置している。学習課題を追究するために必要な資料が豊富に配置され、キャラクターのつぶやきによって見方・考え方を示したり、追究のヒントとなる「LOOK!」、資料活用をポイントを示す「THINK!」が添えられていたり、思考の一助となるよう、よく工夫されている。 | ○ | 写真・地図・図表等を効果的に配置している。学習課題を追究するために必要な資料が豊富に配置され、キャラクターのつぶやきによって学年の能力に見合った課題が提示されている。 | ○ | 写真・地図・図表等を効果的に配置している。写真資料だけでなく、地理的な概念を具体的にイメージできるように配慮されている。図やグラフに用いており、知識の理解と定着を図ることができる。また、二次元コードで各州や各地方の自地図がダウンロードできるなど、よく工夫されている。 |
| 5 表記・表現及び使用上の便宜等 | ○ | ユニバーサルデザイン化の観点から印刷は鮮明である。強力な接着剤を用いた造本は堅牢で長期の使用に耐えられる。環境に配慮した再生紙、植物油インキを使用している。 | ○ | ユニバーサルデザイン化の観点から印刷は鮮明である。造本は堅牢で長期の使用に耐えられる。環境に配慮した再生紙、植物油インキを使用している。 | ○ | ユニバーサルデザイン化の観点から印刷は鮮明である。造本は堅牢で長期の使用に耐えられる。環境に配慮した再生紙、国産米の米めがからつられるインクを使用している。 | ○ | ユニバーサルデザイン化の観点から印刷は鮮明である。図やグラフは色だけでなく、模様によって見分けやすいように配慮されている。造本は堅牢なめじろ糊を採用し、開きや折れに強い使用に耐えられる。環境に配慮した再生紙、植物油インキを使用している。 |
| | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 6 印刷・造本等 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書「各教科固有の追加調査事項」（種目名 社会・地理的分野）

| 発行者 事項 | 東京書籍 | | 教育出版 | | 帝国書院 | | 日本文教 | |
|--|------|---|------|---|------|---|------|---|
| | 評価 | 特徴 | 評価 | 特徴 | 評価 | 特徴 | 評価 | 特徴 |
| 日本の国土と領域をめぐる様々な課題を意識することができるよう構成されているか | | 竹島、尖閣諸島、北方領土を取り上げて、日本が抱える領土をめぐる問題の現状や資源、自然などの地理的な特色について、それぞれの場所や地形の特徴から説明している。尖閣諸島には領土問題はないと記述している。領土をめぐる問題の背景をつかむことができるよう工夫されている。 | ○ | 北方領土と竹島をめぐる問題が生じたいきさつや、尖閣諸島をめぐるこれまでの経緯と近年の情勢について、本文と写真、地図や年表を掲載しながら分かりやすく記載されている。また、領土問題の平和的な解決に向けた学習課題を設け、多面的に理解・考察することができるようによく工夫されている。 | | 北方領土周辺の国境の変化を地図で示すなど、国際法に基づいて定められた日本の領域について地図や写真を用いて丁寧に説明している。北方領土、竹島、尖閣諸島における領土に関する現状と課題を示すなど、工夫がされている。 | ○ | 日本固有の領土である北方領土、竹島の領土問題を、問題が発生する以前の様子から現在までを説明することで的確に取り上げるとともに、尖閣諸島には領土問題は存在していないと記述している。「領土問題の解決に向けて」という内容を取り上げ、諸課題の解決に向けて何が必要かを考えさせるきっかけとなるように記述がされているなど、よく工夫されている。 |
| 自然災害の地理的要因だけでなく、公助・自助や防災の視点についても取り扱っているか | | 日本で見られる様々な自然災害、防災・減災（自助・共助・公助）について学習した後、ハザードマップの読み取り方の紹介をしている。東北地方の単元では、震災の教訓を伝え、記憶を引き継ぐ取り組みを取り上げ、防災意識を高めることの大切さについて考えることができるようになっている。 | ○ | 様々な自然災害と防災・減災（自助・共助・公助）について学習した後、津波避難マップの読み取りを扱っている。「地域調査の方法を学ぼう」では、名古屋市の防災について調べる学習を行い、実感をもって具体的に学習できるように配慮されている。東北地方の単元の特設ページ「クロスロード 震災の経験を未来に生かす」では、災害後の復興まちづくりについて考えることができるようにするなど、よく工夫されている。 | | 日本で発生する様々な自然災害と防災・減災（自助・共助・公助）について学習した後、「アクティブ地理」でハザードマップの読み取りや活用方法を身に付けられるように工夫されている。各地方の自然環境に関連した災害とそれに対する対策の実例を示したコラム「未来に向けて」があり、特に東北地方の単元では防災の重要性や地域ぐるみで取り組むことの大切さを取り上げている。 | ○ | 日本で見られる様々な自然災害、防災・減災（自助・共助・公助）について学習した後、学校や家庭で話し合っって防災対策を実行することの大切さを取り上げたり、ハザードマップの活用方法を身に付けられるようにしたりしている。各地方の学習でも、その地方で行われている防災・減災の取り組みを取り上げ、東北地方の単元では持続可能な社会づくりをテーマとして、単元を通して防災や安全について追究できるようにするなど、よく工夫されている。 |
| 世界の諸地域が抱える地球的課題について主体的に考えることができるよう工夫されているか | | 「未来にアクセス」では、持続可能な社会について考えるヒントとなるコラムが掲載されている。各州のまとめでは、発展的な課題として「地球的課題をふり返ろう」を設定し、各州の学習を地球的課題の側面から考えることができるようにしている。ただし、地球的課題が示されるのが「世界の諸地域」の導入ページのみである。 | ○ | 学習の見通しをもつ各州のはじめの見開きのページに、「○○で学習する地球的課題」として、地球的課題との関わりについて解説することと合わせて、関連の深いページが示されている。特設ページ「クロスロード」では持続可能な社会に向けて発展的な課題を示すなど、単元を通して、地球的課題を主体的に考えることができるよう、よく工夫されている。 | | 「未来に向けて」では、持続可能な社会について考えるヒントとなるコラムが掲載されている。また「アクティブ地理」が見開き1ページで設けられており、アフリカ州の食料、人口、経済、都市・居住といった課題について、解決への取り組みをSDGsと関連させて主体的に考えることができる。ただし、他の州については同様の特設ページが設けられていない。 | ○ | 「地理+α」では、持続可能な社会について考えるヒントとなるコラムが掲載されている。各州のはじめに、地球的課題をつかむ「持続可能な地域をめざして」という特設ページが配置され、節の問いやその問いを解決するための「なぜ」をもてるような工夫がされ、「○○州にみられる地球的課題」につなげている。一人ひとりの「なぜ」を大切にしながら地球的課題を主体的に考えることができる点が優れている。 |

※ 事項ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。